

令和元年度 SSTA 西日本ブロック科学教育若手教員研修会 実施報告

報告者：SSTA 香川支部事務局長 納田 健太

1 研修テーマ

「自然観が豊かになる子どもの育成～子どもたちの問いがつながる単元化・教材化の工夫～」

2 研修のねらい

- ・単元全体を見通した理科授業の基本的なつくり方を学ぶ
- ・理科の見方・考え方はたらかせる単元化・教材化の工夫を考える
- ・他支部の研修生との交流を深める

3 開催日時 令和元年 6月8日（土）13時～9日（日）12時

4 開催場所 香川大学教育学部附属高松小学校
ホテルマリパレスさぬき
高松市立屋島西小学校

5 実施内容

（1）開会行事

- ① 香川支部長挨拶 松岡 貴之 校長
- ② SSTA 常任理事挨拶 石井 信孝 様
- ③ 事務局紹介

（2）研修

研修1 教材化について

まず、香川支部が長年にわたり研究を積み重ねてきた、自然観が豊かな子どもの姿やそのような子どもを育てるための単元全体を見通した授業設計について共通理解を図った。そして、3年「じしゃくにつけよう」、6年「てこのはたらき」の分科会に分かれて、単元のねらいや予想されるつまずき、はたらかせたい見方・考え方について協議した。

事前に研修内容を通知していたこともあり、これまでの実践で工夫したことや日々の授業で困っていること等、具体的なレベルでの活発な議論が展開され、参加者の意識の高さを感じた。実際に教材に触れながら対話を重ねる中で、課題が明らかになり単元の構想がつかめてきたようだった。



研修2 本時案の作成

次に、研修1で明らかになった課題を解決し、目指す子どもの姿に近づけるような授業プランについて討議した。子どもたちの素朴な疑問を学習課題につなぐための教材との出会わせ方や日常生活との関連に気づかせるための手立て、学習意欲を高めるための評価の方法等、子どもの意識のつながりを大切にしていた。少人数のグループで討議することで、多様な視点からアプローチすることができていた。また、他府県の先生と交流することを通して、様々な授業の筋道に触れることができたことも、参加者にとって大きな成果であったようだ。



研修3 研修の成果の発表と教材ワークショップ

① 研修成果の発表

各グループで作成した授業づくりプランについて発表した。磁石を重ねた場合の力の変化に着目して、磁石の性質の本質に迫ろうとしたり、ランドセルの持ち方の違いによる重さの感じ方の違いから学習課題を設定したり、子どもの意識の流れを大切にしたい発表が多かった。こうした2つの単元の教材研究を通して、既習事項と事実のズレから問いを生み出したり、授業を通して養われた見方・考え方をもとに自然事象を見つめ直したりするような、理科授業づくりにおいて大切にしたい視点にも気づくことができていた。開発した教材を従来の教材と比較しながら提示したり、子どもの意識をつなぐための発問の工夫を模擬授業で表現したりと発表方法にも工夫がみられた。



企画研修委員の先生からの、それぞれのグループの魅力や実施する上での配慮すべき点に関するご指導も研修員にとって今後のモチベーションを高めるきっかけになったようだ。

② 教材ワークショップ（浮沈子・静電気クラゲ・種子モデル）

最後に、身近な材料を使用して子どもたちの科学への興味・関心を高めることができるような教材ワークショップを実施した。実験を成功させるためのコツや、楽しむだけではなく、科学的な気づきを高めるための視点の持たせ方について地域や立場をこえて和気藹々と話し合う場面がみられた。先輩教師との対話を通して、ものづくりのノウハウだけでなく、理科を志す教師としての生き方を感じたという研修員の声もあった。



(3) 閉会行事

- ① 閉会挨拶 倉沢 均 校長
- ② 財団挨拶 関根 好幸 様
- ③ 時期開催支部（大阪支部）挨拶 坂口 隆大郎 様

